

# お金のトラブル怖い

セミナーで、模擬紙幣を使いお小遣いのやりくりを体験する子どもたち＝名古屋市昭和区で

この夏休み、金融機関や専門家グループによる子ども向け金融教室が東海地方で相次いで開かれている。早いうちから金銭感覚を養ってもらおうと始まった動きだが、トラブルに巻き込まれないための「予防教育」の意

味合いも強まってきている。

名古屋市内の生命保険会社社員や信託銀行員ら四人でつくる自主グループ「ラクガクくらぶ」は、二〇〇五年から年数回、「お小遣いセミナー」を開いている。

名古屋市昭和区でのセミナーには、小学生八人が参加。模擬紙幣を使って買い物をするゲームに取り組んだ。

「お金を足りなくなったら」と子どもの一人が「借金」したが、講師や親が口を挟むことはない。自ら判断してお金をやりくりするのがルールだ。

講師の一人で、ファイナンシャルプランナーの

## 子ども向けに金融教室

福武純子さん(五七)は「安易なカード利用で多重債務に陥る大人が多い中、早くからお金の管理を学ぶことが自立への一歩になる」とセミナーの意義を強調する。

三重銀行は十七日、三重県四日市市の本店で、お金や銀行の役割について行員が小学生の親子に説明する教室を開いた。

りそな銀行も今夏、全国の約六十支店で、小中学生向けに銀行業務見学などの金融講座を開催中。二十一日には名古屋支店で実施した。

いずれも金融と経済の仕組みを早くから知ってもらおうという狙い。りそな銀行東海営業本部の担当者は「定員の三倍の応募があった。子どもに金融知識を学ばせたい親が増えているのでは」と、反響の大きさに驚いている。